

# 地域デザインミュージアム

復興デザインスタジオ2025 — 計画と地域をつなぐ —

初回 4/7 ガイダンスおよびレクチャー  
工学部1号館 15号講義室

講義時間 月曜日3～5限 13:00～18:30

履修者 30名程度

担当 羽藤英二、福田大輔  
小林里瑳、渡邊萌(社会基盤)  
大月敏雄、中尾俊介(建築)  
中島直人(都市工)  
本田利器(新領域)

外部講師 大岡寛典(アートディレクター)

現地調査 4/19-21  
福島県浪江町  
愛媛県宇和島市、愛南町

レクチャー 4/7 羽藤英二(東京大学・都市工学)  
4/14 藤田香織(東京大学・建築構法)

講評会 5/26 中間講評  
7/7 最終講評

※夏休み、秋学期に本スタジオで構想したミュージアムの活動を浪江町、宇和島市、愛南町で実践する。集中講義「復興デザイン実践学社会接続演習」を合わせて履修すること。



本年度の復興デザインスタジオは、福島県浪江町と愛媛県宇和島市・愛南町における「地域デザインミュージアム」をテーマとする。

福島県浪江町では、原発災害によって人口が十分の一に減少し、復興のために大規模なプロジェクトも進行するなか、帰還者・移住者によって地域をみなおし、日常をとりもとそうとする営みが広がる。そこでは、地域に存在する社会インフラを可視化することで、住民との関係を再構築し、その柔軟な活用を後押しすることが浪江町への有効な提案になりうる。愛媛県宇和島市・愛南町では、行政によって南海トラフ地震への事前復興計画が練られているが、人口が減少するなか、日常の生業や防災に関わる地道な活動と接続し、地域の存続を図る必要がある。能登半島地震の後に地域をみつめなおし、その個性を共有・発信しようとする運動が広がる動向にかんがみれば、南予の事前復興としてあらためて地域のことを知り、共有する仕組みが重要になるだろう。

そこで、「地域デザインミュージアム」の展示・ワークショップをデザインし、地域を理解し、将来にむけた選択肢を考え、意見交換・協働ができる場を構想してほしい。歴史調査、測量、データ分析等のリサーチの成果やインタビュー、事前復興・復興まちづくりの提案など、各地でふさわしいコンテンツを考えて展示すること。

地域を存続させようとするたしかかな営為と計画のあいだをつなぐプログラムを構想し実践してもらいたい。